

2025 年度実施概要

■学校名

与論小学校

■採択活動名

地域連携型の与論町海洋教育 ～ユンヌの海から世界へ～

■実施単元

単元名	学年	教科
1.与論島の昔の暮らしを調べよう	3 年	ゆんぬ学
2.与論の文化や行事について調べよう	4 年	ゆんぬ学
3.与論の恵みの味	5 年	ゆんぬ学
4.ユンヌフトゥバに親しもう	3～6 年	ゆんぬ学

※実施した単元の数に応じて記載（欄は適宜追加してください）

※総合的な学習・探究の時間等においても、一連の学習活動のまとまりを単元として捉え、どのような学習が展開されたか（具体的な学習の姿、学習の高まり、目的など）を端的に表現し単元名としてください。

■取り組みの概要

○「与論島の昔の暮らしを調べよう」 3 年

おじいさんやおばあさんが子供だったころの与論の暮らしについて調べ、新聞にまとめた。今の暮らしと昔の暮らしがどのように変化したのかを詳しく調べてみると、昔の暮らしには様々な工夫が凝らされていたことに気付くことができた。また、民俗村を訪れ、昔の道具や昔の住居を実際に目で見て調べることができた。



○「与論の文化や行事について調べよう」 4 年

与論の伝統的な文化や行事の中で、十五夜踊り、芭蕉布、ぷちむっちゃーについて調べた。それぞれゲストティーチャーを招いたり、施設に行ったりして体験活動を行うことができた。存在は知っていたけど、十五夜踊りを見に行ったり芭蕉布を織ったり、ぷちむっちゃーを作ったりしたことがない児童がほとんどで、よい体験となった。また、自分たちにできることを考えるきっかけとなった。



○「与論の恵みの味」5 年

与論の特産物であるさとうきびを栽培し、黒糖を昔ながらの方法で作ることで、先人の知恵や苦労を体験した。さとうきびの植え付け後は除草の作業を行い、成長を見守った。きびかりのやり方については、保護者の方に教えていただいた。民俗村での黒糖作りは大変であったが、与論の伝統的な方法で黒糖を作り、苦労と共にそれを味わうことができた。



○「ユンヌフトゥバに親しもう」3 年～6 年

月に1回与論民俗村の菊さんに来てもらい、与論のことわざカレンダーやゆんぬふとうばカルタの言葉を読んだり、ゆんぬ劇（方言劇）を創り上げたりする活動などを行った。児童にとっては、身近な場で使われなくなってきた地元の方言であるが、身近な言葉を通して方言に親しんだり、昔話を演じたりする等で、表現することができた。